

# 地場企業の経営動向調査

(令和2年度第1四半期)

令和2年7月22日

 福岡商工会議所

総合企画部 企画広報グループ

TEL 092-441-1112

## 調査目的

福岡市内地場企業（一部福岡市近郊を含む）の景況及び経営動向を把握すると同時に、これらの情報を企業へ提供し、企業経営の参考に資するものである。

## 調査対象

当所会員企業を対象とし2,000社を任意抽出したもので、対象企業の内訳は中小企業1,907社（構成比率95.3%）、大企業93社（構成比率4.7%）により構成されている。

回答した企業数は537社、回答率26.9%となっており、回答企業の内訳は、中小企業512社（構成比率95.3%）、大企業25社（4.7%）となっている。

## 調査要領

四半期毎にアンケートを実施し、今回ファクスを利用した。

内容は前年同期比の回答を求めるもので、今回は令和2年4～6月期の実績、及び令和2年7～9月期の予想について、令和2年6月時点で調査した。

## 調査内容

※DI値を集計（DI=「良いとする回答割合」－「悪いとする回答割合」）

DI・・・Diffusion Index（景気動向指数）の略

### 《 景気・経営動向調査 》

1. 自社・業界の景況
2. 生産額、売上額、完成工事高
3. 原材料・製（商）品仕入価格
4. 受注価格、販売価格
5. 製（商）品在庫
6. 営業利益
7. 資金繰り
8. 当面の経営上の問題点

調査対象企業数及び回収結果

規 模 別	対象数	回答数	回答率	回答結果 構成比
全 業 種	2,000	537	26.9%	
中 小 企 業	1,907	512	26.8%	95.3%
大 企 業	93	25	26.9%	4.7%

業 種 別	対象数	回答数	回答率	回答結果 構成比
全 業 種	2,000	537	26.9%	
建 設 業	348	101	29.0%	18.8%
土木建設業	140	40	28.6%	7.4%
建設付帯工事業	85	23	27.1%	4.3%
電気・管工事業	123	38	30.9%	7.1%
製 造 業	237	84	35.4%	15.6%
食料品製造業	75	25	33.3%	4.7%
繊維製品製造業	10	3	30.0%	0.6%
建材・木・紙製品製造業	10	4	40.0%	0.7%
印刷・製本業	45	12	26.7%	2.2%
窯業・土木製品製造業	9	3	33.3%	0.6%
金属製品製造業	21	12	57.1%	2.2%
一般機械器具製造業	22	8	36.4%	1.5%
電気機械器具製造業	21	8	38.1%	1.5%
その他製造業	24	9	37.5%	1.7%
卸 売 業	305	95	31.1%	17.7%
食料品卸売業	81	24	29.6%	4.5%
繊維製品卸売業	26	6	23.1%	1.1%
建材・住宅機器卸売業	41	14	34.1%	2.6%
金属・鋼材卸売業	5	3	60.0%	0.6%
一般機械器具卸売業	54	12	22.2%	2.2%
電気機械製品卸売業	8	2	25.0%	0.4%
石油・化学製品卸売業	11	2	18.2%	2.0%
その他卸売業	79	32	40.5%	6.0%
小 売 業	222	53	23.9%	9.9%
食料品小売業	56	16	28.6%	3.0%
衣料品・身の回り品小売業	33	7	21.2%	1.3%
石油・化学製品小売業	12	2	16.7%	0.4%
車両運搬具小売業	15	2	13.3%	0.4%
家電・厨房器具小売業	21	6	28.6%	1.1%
量販店	4	2	50.0%	0.4%
その他小売業	81	18	22.2%	3.4%
運 輸 ・ 倉 庫 業	115	39	33.9%	7.3%
旅客運送業	38	9	23.7%	1.7%
貨物運送・倉庫業	77	30	39.0%	5.6%
サ ー ビ ス 業	773	165	21.3%	30.7%
情報処理サービス業	110	32	29.1%	6.0%
その他事務所サービス業	367	72	19.6%	13.4%
ホテル・旅館・飲食業	104	21	20.2%	3.9%
その他の個人サービス業	192	40	20.8%	7.4%

# 1. 自社・業界の景況

《景気はリーマンショックに迫る悪化、次期も厳しい状況が続く見通し》

今四半期(令和2年4月～6月)の地場企業の景況判断は、全業種で「良くなった」と回答した企業割合は6.7%(前期比▲5.6%)、「悪くなった」と回答した企業割合は71.3%(前期比+20.8%)、「横ばい」と回答した企業割合は15.6%(前期比▲17.6%)となった。景況判断指数DI値は▲64.6(前期DI値▲38.2)となり、前期比で▲26.4ポイント悪化した。リーマン・ショック後の平成21年1～3月(▲67.1)以来、約11年ぶりの低水準となった。

業種別にみると、前四半期に大幅に悪化した運輸・倉庫業に続き、他業種でも大幅に悪化。具体的には、建設業(前期▲11.7→今期▲58.3、前期比▲46.6)が特に悪化。卸売業(▲48.5→▲77.9、前期比▲29.4)、小売業(▲30.7→▲54.7、前期比▲24.0)、製造業(▲39.7→▲63.1、前期比▲23.4)、サービス業(▲44.4→▲67.2、前期比▲22.8)の悪化も目立つ。運輸・倉庫業(▲67.5→▲53.8、前期比+13.7)については持ち直しを見せた。

規模別にみると、中小企業(前期▲38.3→今期▲65.8)では前期比▲27.5ポイント、大企業(▲37.0→▲40.0)は前期比▲3.0ポイントと、ともに悪化した。

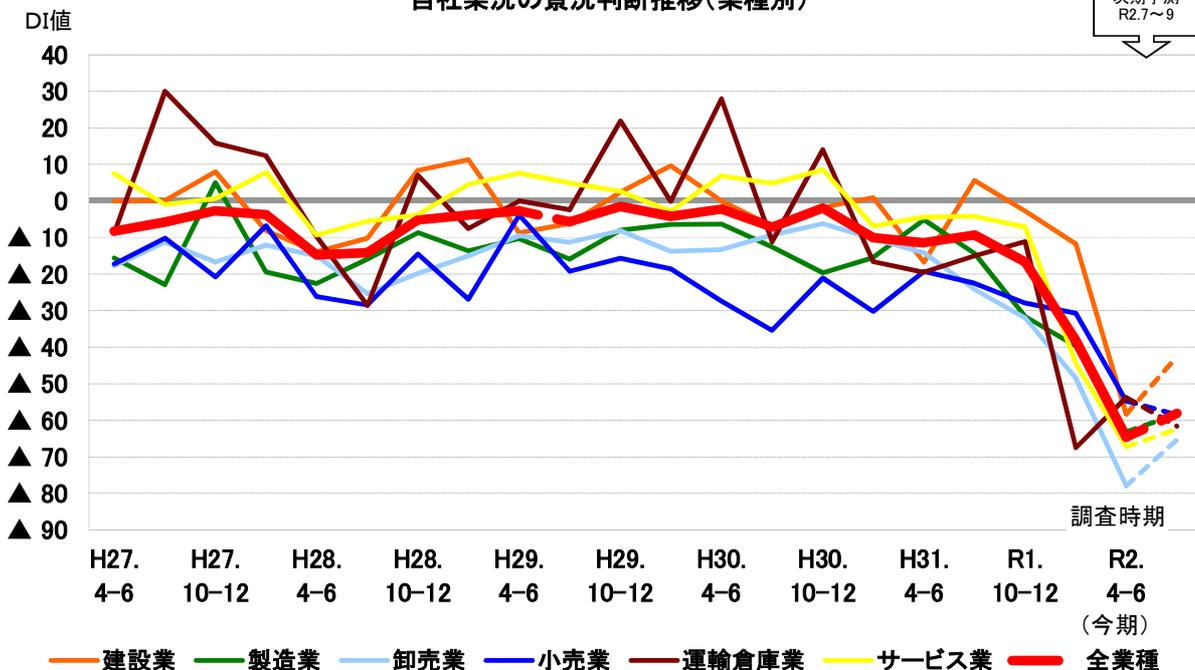
次四半期(令和2年7～9月)予測については▲58.1となっており、今期比+6.5ポイントと厳しい状況が続く見通し。

《 自社業況の総合判断(前年同期と比較して) 》

( 単位 % )

	今四半期(R2年4～6月期)実績							次四半期(R2年7～9月期)予測						
	非常に良くなった	やや良くなった	横ばい	やや悪くなった	非常に悪くなった	未記入	DI値	非常に良くなる	やや良くなる	横ばい	やや悪くなる	非常に悪くなる	未記入	DI値
全業種	1.7	5.0	15.6	33.5	37.8	6.3	▲64.6	0.4	6.0	15.3	39.5	25.0	14.0	▲58.1
建設業	2.0	3.0	25.7	46.5	16.8	5.9	▲58.3	0.0	7.9	26.7	38.6	11.9	14.9	▲42.6
製造業	1.2	7.1	10.7	32.1	39.3	9.5	▲63.1	1.2	8.3	7.1	38.1	29.8	15.5	▲58.4
卸売業	0.0	3.2	10.5	33.7	47.4	5.3	▲77.9	0.0	5.3	7.4	41.1	29.5	16.8	▲65.3
小売業	9.4	5.7	11.3	17.0	52.8	3.8	▲54.7	1.9	7.5	11.3	35.8	32.1	11.3	▲58.5
運輸・倉庫業	0.0	7.7	15.4	25.6	35.9	15.4	▲53.8	0.0	5.1	10.3	38.5	28.2	17.9	▲61.6
サービス業	0.6	5.5	16.4	33.3	40.0	4.2	▲67.2	0.0	3.6	19.4	41.2	24.8	10.9	▲62.4
中小企業	1.6	4.3	15.8	34.0	37.7	6.6	▲65.8	0.2	6.1	15.2	39.3	24.6	14.6	▲57.6
大企業	4.0	20.0	12.0	24.0	40.0	0.0	▲40.0	4.0	4.0	16.0	44.0	32.0	0.0	▲68.0

自社業況の景況判断推移(業種別)



## 2. 生産額、売上額、完成工事高

《大幅な悪化。次期はほぼ横ばいとなる見通し》

生産額、売上額、完成工事高については、全業種で「増えた」と回答した企業は7.4%（前期比▲4.9%）、「減った」と回答した企業は68.1%（前期比+22.8%）、「横ばい」と回答した企業は21.0%（前期比▲17.9%）となっており、DI値は▲60.7（前期DI値▲33.0）と、前期比▲27.7ポイントの悪化となった。

業種別にみると、運輸・倉庫業（前期▲57.5→今期▲56.4、前期比+1.1）のみ改善。一方、建設業（▲4.5→▲48.5、前期比▲44.0）、サービス業（▲33.8→▲62.5、前期比▲28.7）、製造業（▲39.8→▲64.2、前期比▲24.4）、卸売業（▲50.5→▲74.7、前期比▲24.2）、小売業（▲30.8→▲51.0、前期比▲20.2）で悪化となった。

規模別にみると、中小企業（前期▲33.2→今期▲61.7）では前期比▲28.5ポイント、大企業（▲29.6→▲40.0）では前期比▲10.4ポイントと、ともに悪化した。

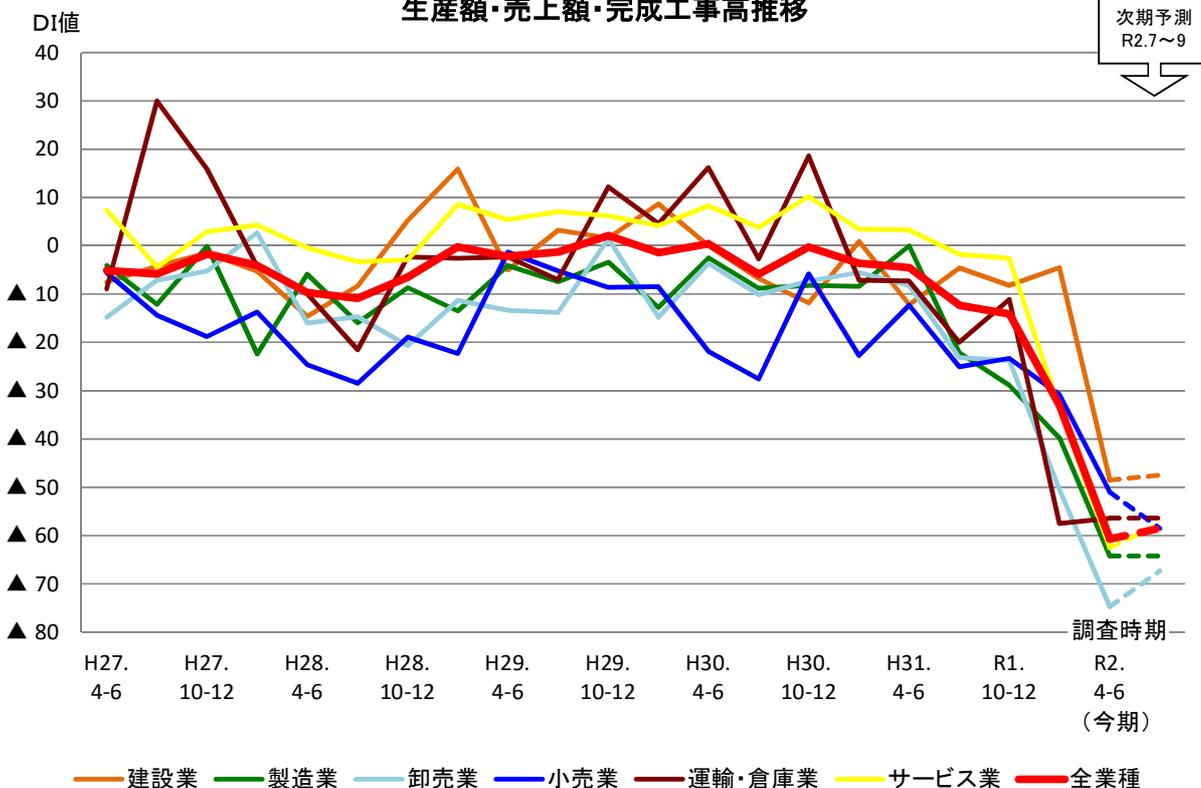
次四半期（令和2年7月～6月）予測については▲58.5となっており、今期比+2.2ポイントでほぼ横ばい。

《生産額、売上額、完成工事高（前年同期と比較して）》

（単位 %）

	今四半期（R2年4～6月期）実績							次四半期（R2年7～9月期）予測						
	2ケタ増	1ケタ増	横ばい	1ケタ減	2ケタ減	未記入	DI値	2ケタ増	1ケタ増	横ばい	1ケタ減	2ケタ減	未記入	DI値
全業種	3.5	3.9	21.0	23.6	44.5	3.4	▲60.7	0.9	4.5	20.9	31.3	32.6	9.9	▲58.5
建設業	3.0	2.0	38.6	34.7	18.8	3.0	▲48.5	0.0	4.0	36.6	32.7	18.8	7.9	▲47.5
製造業	2.4	6.0	15.5	28.6	44.0	3.6	▲64.2	0.0	6.0	14.3	35.7	34.5	9.5	▲64.2
卸売業	1.1	4.2	11.6	22.1	57.9	3.2	▲74.7	0.0	5.3	10.5	34.7	37.9	11.6	▲67.3
小売業	9.4	7.5	11.3	7.5	60.4	3.8	▲51.0	1.9	7.5	11.3	28.3	39.6	11.3	▲58.5
運輸・倉庫業	2.6	2.6	25.6	10.3	51.3	7.7	▲56.4	2.6	5.1	17.9	28.2	35.9	10.3	▲56.4
サービス業	4.2	3.0	20.6	23.6	46.1	2.4	▲62.5	1.8	2.4	24.2	27.9	33.9	9.7	▲57.6
中小企業	3.7	3.1	21.1	24.0	44.5	3.5	▲61.7	1.0	4.5	20.5	31.3	32.4	10.4	▲58.2
大企業	0.0	20.0	20.0	16.0	44.0	0.0	▲40.0	0.0	4.0	28.0	32.0	36.0	0.0	▲64.0

生産額・売上額・完成工事高推移



### 3. 原材料、製(商)品仕入価格

《下落。次期はほぼ横ばい見通し》

原材料、製(商)品仕入価格については、「上昇」と回答した企業は12.7%(前期比▲10.5%)、「下落」と回答した企業は8.2%(前期比+5.1%)、「横ばい」と回答した企業は66.9%(前期比+5.7%)となっており、DI値は+4.5(前期DI値+20.1)と前期比▲15.6ポイントと下落となった。

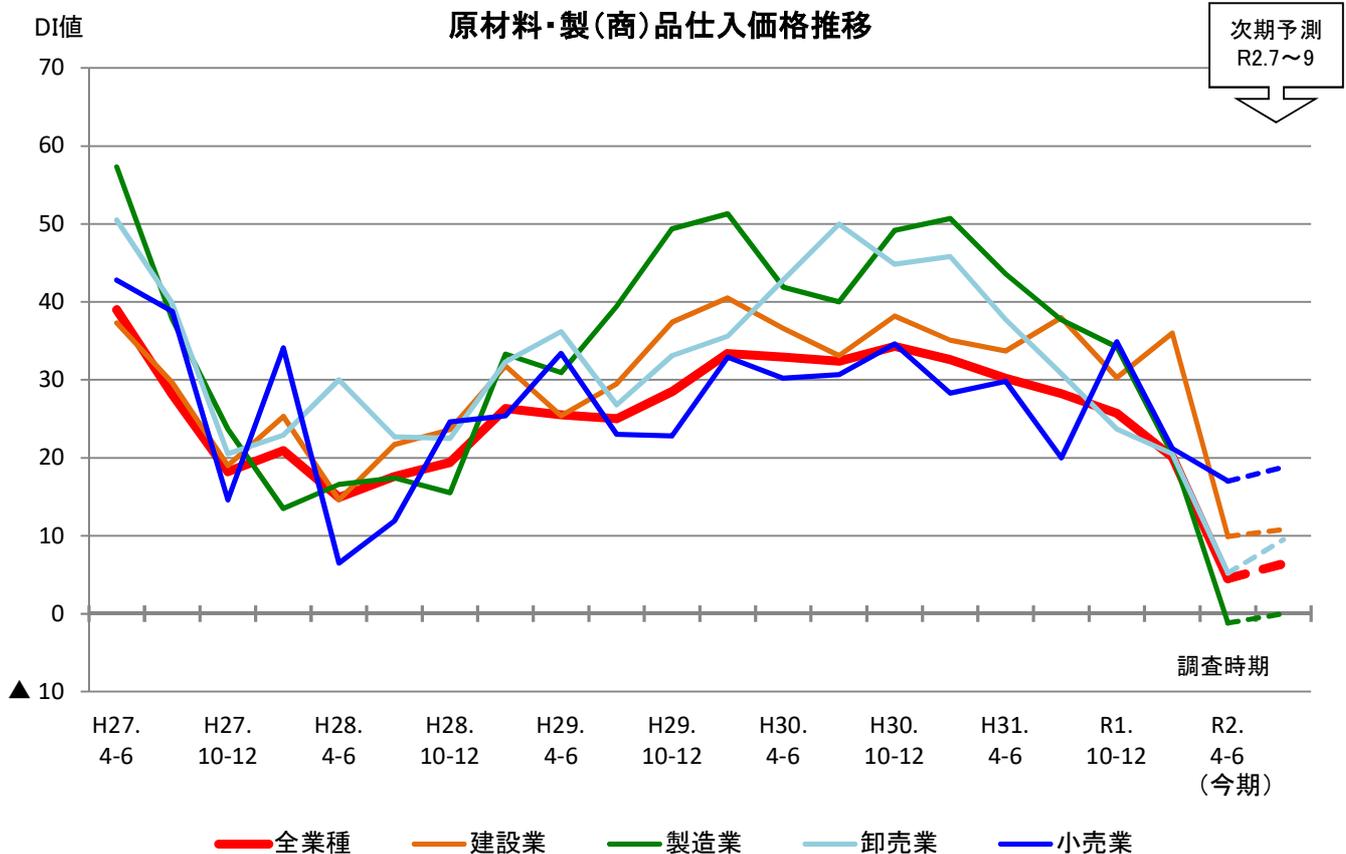
業種別にみると、全業種で下落。具体的には、運輸・倉庫業(前期+10.0→今期▲20.5、前期比▲30.5)、建設業(+36.0→+9.9、前期比▲26.1)、製造業(+20.5→▲1.2、前期比▲21.7)、卸売業(+20.5→+5.2、前期比▲15.3)、サービス業(+11.8→+5.5、前期比▲6.3)、小売業(+21.2→+17.0、前期比▲4.2)で下落となった。

規模別にみると、中小企業(前期+20.6→今期+4.7)では前期比▲15.9ポイント、大企業(+11.1→±0.0)では前期比▲11.1ポイントといずれも下落となった。

次四半期(令和2年7月～9月)予測については+6.4となっており、今期比+1.9ポイントでほぼ横ばいの見通し。

《 原材料、製品仕入価格(前年同期と比較して) 》 (単位 %)

	今四半期(R2年4～6月期)実績					次四半期(R2年7～9月期)予測				
	上昇	横ばい	下落	未記入	DI値	上昇	横ばい	下落	未記入	DI値
全業種	12.7	66.9	8.2	12.3	4.5	13.8	59.4	7.4	19.4	6.4
建設業	12.9	81.2	3.0	3.0	9.9	15.8	70.3	5.0	8.9	10.8
製造業	9.5	77.4	10.7	2.4	▲1.2	14.3	59.5	14.3	11.9	0.0
卸売業	16.8	67.4	11.6	4.2	5.2	20.0	53.7	10.5	15.8	9.5
小売業	24.5	66.0	7.5	1.9	17.0	24.5	56.6	5.7	13.2	18.8
運輸・倉庫業	2.6	30.8	23.1	43.6	▲20.5	2.6	33.3	12.8	51.3	▲10.2
サービス業	10.3	61.2	4.8	23.6	5.5	7.9	63.0	3.0	26.1	4.9
中小企業	12.9	66.6	8.2	12.3	4.7	14.3	58.8	7.4	19.5	6.9
大企業	8.0	72.0	8.0	12.0	0.0	4.0	72.0	8.0	16.0	▲4.0



#### 4. 受注価格、販売価格

《下落、次期はわずかに下落の見通し》

受注価格、販売価格については、「上昇」と回答した企業は5.0%（前期比▲1.2%）、「下落」と回答した企業は24.4%（前期比+6.6%）、「横ばい」と回答した企業は62.9%（前期比▲6.7%）となっており、DI値は▲19.4（前期DI値▲11.6）と前期比▲7.8ポイントとなった。

業種別にみると、小売業（前期▲15.4→今期▲9.5、前期比+5.9）のみ上昇となった。一方、建設業（▲0.9→▲21.7、前期比▲20.8）、サービス業（▲11.8→▲19.4、前期比▲7.6）、運輸・倉庫業（▲7.5→▲12.8、前期比▲5.3）、製造業（▲12.8→▲17.8、前期比▲5.0）、卸売業（▲22.6→▲26.3、前期比▲3.7）では下落となった。

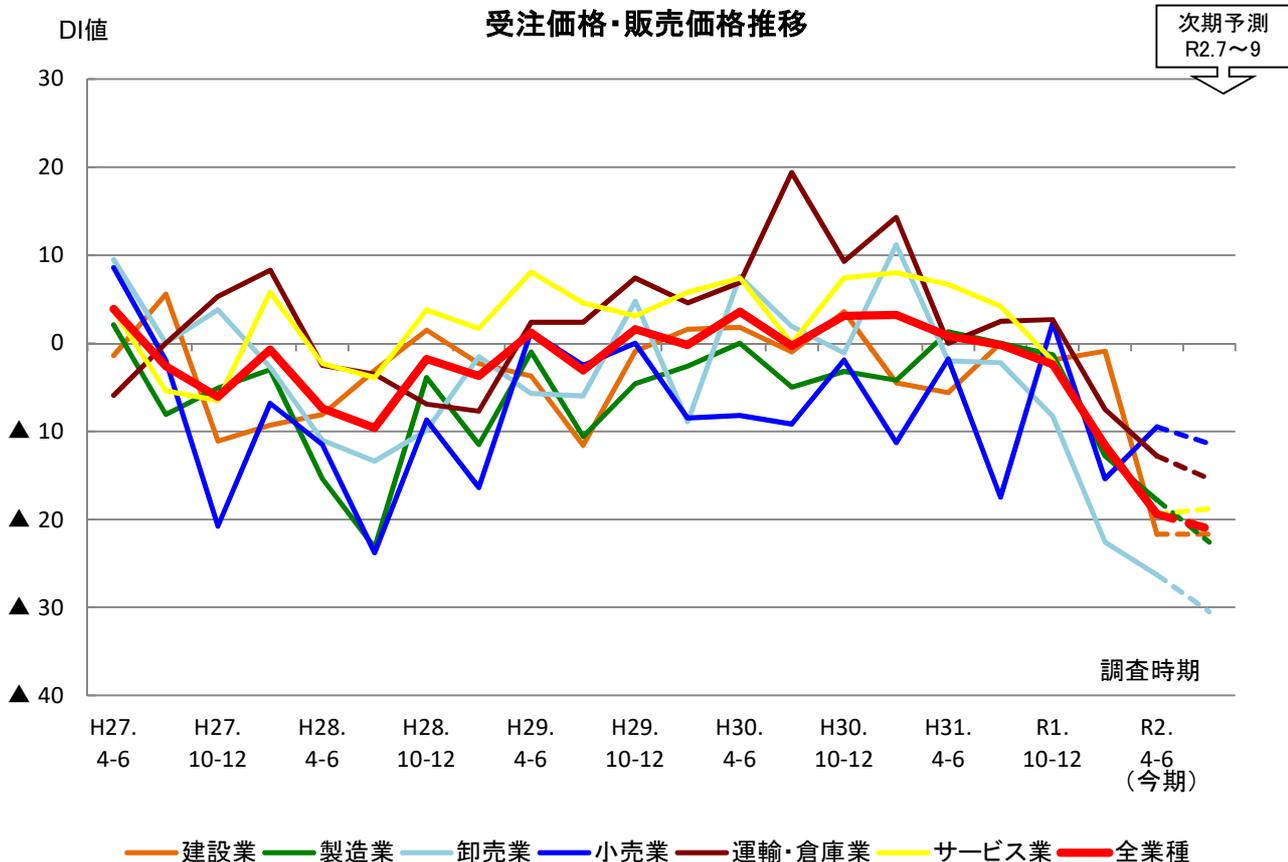
規模別にみると、中小企業（前期▲10.8→今期▲19.7）では前期比▲8.9ポイントと下落。一方、大企業（▲25.9→▲12.0）では前期比+13.9ポイントと改善した。

次四半期（令和2年7月～9月）予測については、▲21.1となっており、今期比で▲1.7ポイントでわずかに下落の見通しとなる。

《 受注価格、販売価格（前年同月と比較して） 》

（単位 %）

	今四半期(R2年4～6月期)実績					次四半期(R2年7～9月期)予測				
	上昇	横ばい	下落	未記入	DI値	上昇	横ばい	下落	未記入	DI値
全業種	5.0	62.9	24.4	7.6	▲19.4	3.5	57.2	24.6	14.7	▲21.1
建設業	4.0	67.3	25.7	3.0	▲21.7	4.0	62.4	25.7	7.9	▲21.7
製造業	3.6	73.8	21.4	1.2	▲17.8	1.2	65.5	23.8	9.5	▲22.6
卸売業	5.3	56.8	31.6	6.3	▲26.3	2.1	49.5	32.6	15.8	▲30.5
小売業	11.3	62.3	20.8	5.7	▲9.5	9.4	56.6	20.8	13.2	▲11.4
運輸・倉庫業	5.1	46.2	17.9	30.8	▲12.8	5.1	33.3	20.5	41.0	▲15.4
サービス業	4.2	62.4	23.6	9.7	▲19.4	3.0	60.0	21.8	15.2	▲18.8
中小企業	5.1	62.1	24.8	8.0	▲19.7	3.7	56.3	24.6	15.4	▲20.9
大企業	4.0	80.0	16.0	0.0	▲12.0	0.0	76.0	24.0	0.0	▲24.0



## 5. 製（商）品在庫

《過剰、次期は持ち直し適正方向へ》

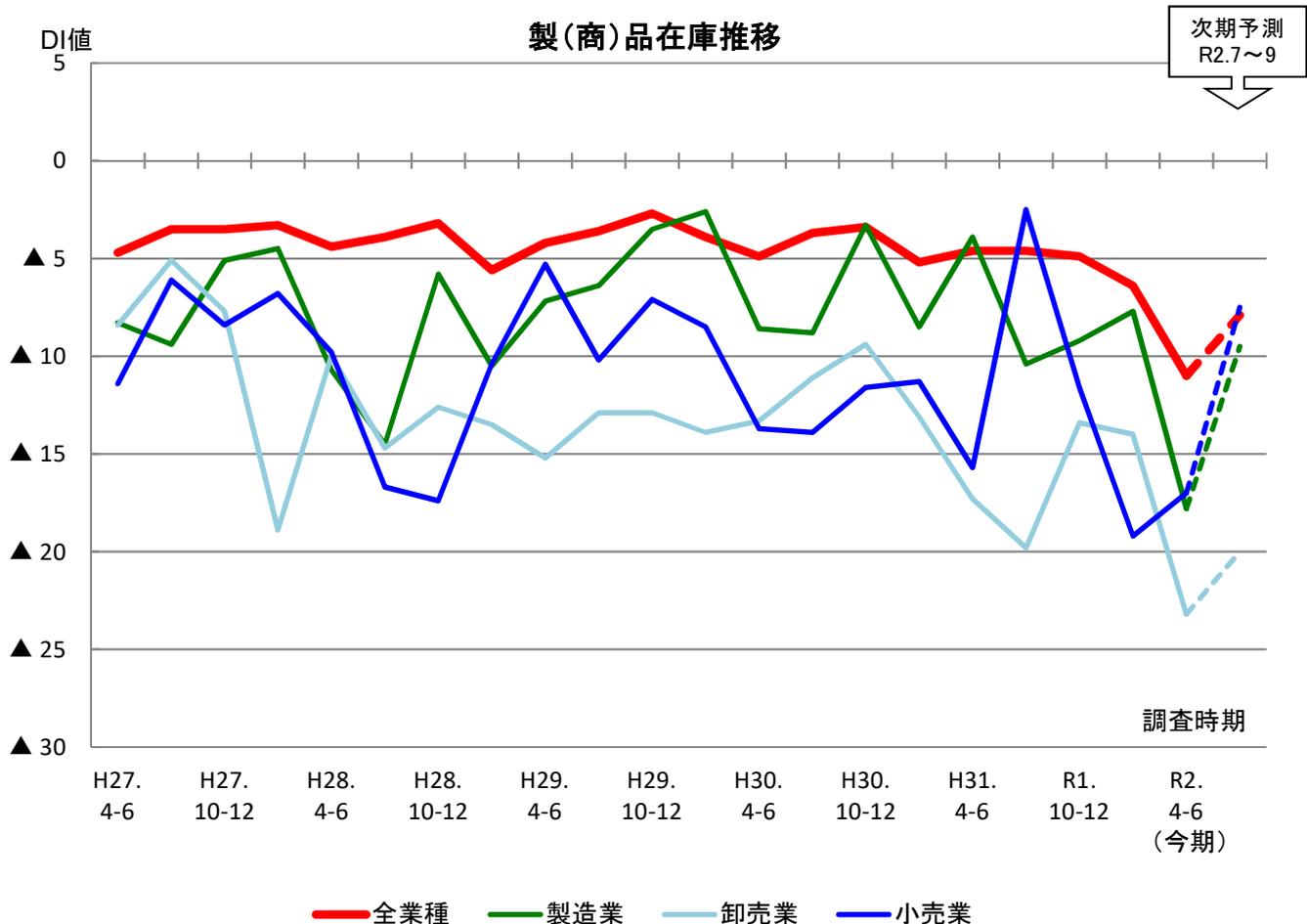
製（商）在庫については、「適正」と回答した企業は60.0%（前期比+0.2%）、「不足」と回答した企業は3.0%（前期比▲1.7%）、「過剰」と回答した企業は14.0%（前期比+2.9%）となっており、DI値は▲11.0（前期DI値▲6.4）と前期比▲4.6ポイントで過剰状態となった。

次四半期（令和2年7月～9月）予測については、▲7.9となっており、今期比+3.1ポイントで適正方向へ推移する見通し。

《製（商）品在庫（貴社の適正水準と比較して）》

（単位 %）

	今四半期(R2年4～6月期)実績					次四半期(R2年7～9月期)予測				
	不足	適正	過剰	未記入	DI値	不足	適正	過剰	未記入	DI値
全業種	3.0	60.0	14.0	23.1	▲11.0	2.2	59.2	10.1	28.5	▲7.9
建設業	4.0	60.4	2.0	33.7	2.0	4.0	58.4	2.0	35.6	2.0
製造業	2.4	75.0	20.2	2.4	▲17.8	2.4	75.0	11.9	10.7	▲9.5
卸売業	2.1	69.5	25.3	3.2	▲23.2	2.1	61.1	22.1	14.7	▲20.0
小売業	7.5	64.2	24.5	3.8	▲17.0	3.8	73.6	11.3	11.3	▲7.5
運輸・倉庫業	0.0	30.8	2.6	66.7	▲2.6	0.0	25.6	5.1	69.2	▲5.1
サービス業	2.4	52.1	10.9	34.5	▲8.5	1.2	53.9	7.9	37.0	▲6.7
中小企業	2.9	60.0	13.3	23.8	▲10.4	2.3	58.6	9.6	29.5	▲7.3
大企業	4.0	60.0	28.0	8.0	▲24.0	0.0	72.0	20.0	8.0	▲20.0



## 6. 営業利益

《大幅な悪化》

営業利益については、「増加」と回答した企業は7.6%（前期比▲2.5%）、「減少」と回答した企業は66.3%（前期比+16.5%）、「横ばい」と回答した企業は23.6%（前期比▲14.8%）となっており、DI値は▲58.7（前期DI値▲39.7）で前期比▲19.0ポイントと大幅な悪化となった。

業種別にみると、運輸・倉庫業（前期▲62.5→今期▲59.0、前期比+3.5）のみ改善。一方、建設業（▲18.9→▲45.5、前期比▲26.6）、製造業（▲39.8→▲60.7、前期比▲20.9）、サービス業（▲42.7→▲62.4、前期比▲19.7）、卸売業（▲49.5→▲68.4、前期比▲18.9）、小売業（▲38.5→▲50.9、前期比▲12.4）で悪化となった。

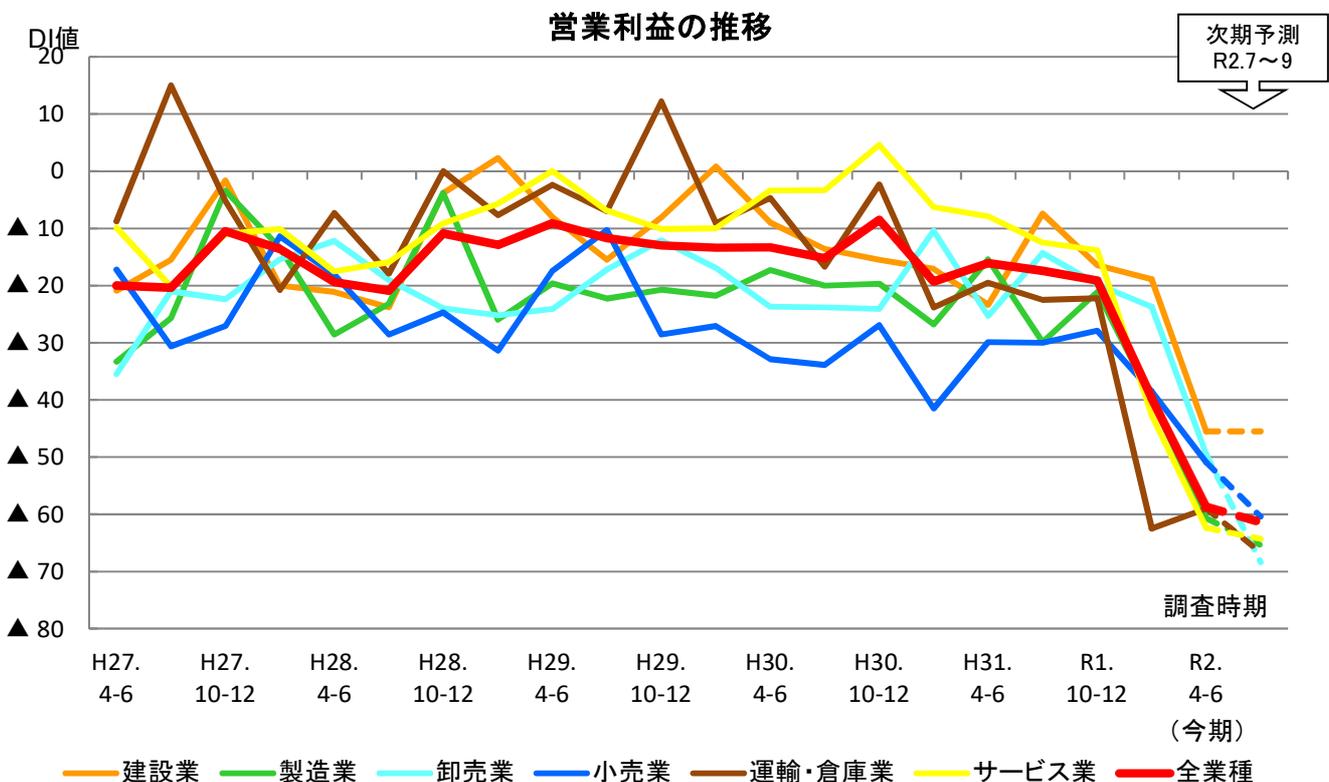
規模別にみると、中小企業（前期▲39.3→今期▲60.2）では前期比▲20.9ポイント悪化、大企業（▲48.2→▲28.0）では前期比+20.2ポイントと改善した。

次四半期（令和2年7月～9月）予測については、▲61.4となっており、今期比▲2.7ポイントでやや悪化の見通し。

《 営業利益（前年同期と比較して） 》

（単位 %）

	今四半期(R2年4～6月期)実績					次四半期(R2年7～9月期)予測				
	増加	横ばい	減少	未記入	DI値	増加	横ばい	減少	未記入	DI値
全業種	7.6	23.6	66.3	2.4	▲58.7	3.2	23.6	64.6	8.6	▲61.4
建設業	4.0	42.6	49.5	4.0	▲45.5	3.0	40.6	48.5	7.9	▲45.5
製造業	9.5	17.9	70.2	2.4	▲60.7	4.8	14.3	70.2	10.7	▲65.4
卸売業	6.3	17.9	74.7	1.1	▲68.4	2.1	16.8	70.5	10.5	▲68.4
小売業	17.0	13.2	67.9	1.9	▲50.9	3.8	22.6	64.2	9.4	▲60.4
運輸・倉庫業	7.7	17.9	66.7	7.7	▲59.0	5.1	17.9	71.8	5.1	▲66.7
サービス業	6.7	23.0	69.1	1.2	▲62.4	2.4	23.6	66.7	7.3	▲64.3
中小企業	6.6	24.0	66.8	2.5	▲60.2	2.9	23.6	64.5	9.0	▲61.6
大企業	28.0	16.0	56.0	0.0	▲28.0	8.0	24.0	68.0	0.0	▲60.0



## 7. 資金繰り

《悪化。次期はさらに悪化する見通し》

資金繰りについては、「楽である」と回答した企業は4.8%（前期比▲1.5%）、「苦しい」と回答した企業は32.4%（前期比+11.2%）、「不変」と回答した企業は60.0%（前期比▲10.7%）となっており、DI値は▲27.6（前期DI値▲14.9）と前期比▲12.7ポイントと悪化した。

業種別にみると、全業種で悪化。特に、卸売業（前期▲12.9→今期▲32.6、前期比▲19.7）、小売業（▲15.4→▲34.0、前期比▲18.6）が大幅に悪化。製造業（▲21.8→▲35.7、前期比▲13.9）、運輸・倉庫業（▲15.0→▲25.6、前期比▲10.6）、サービス業（▲19.6→▲28.5、前期比▲8.9）、建設業（▲3.6→▲11.9、前期比▲8.3）でも悪化となった。

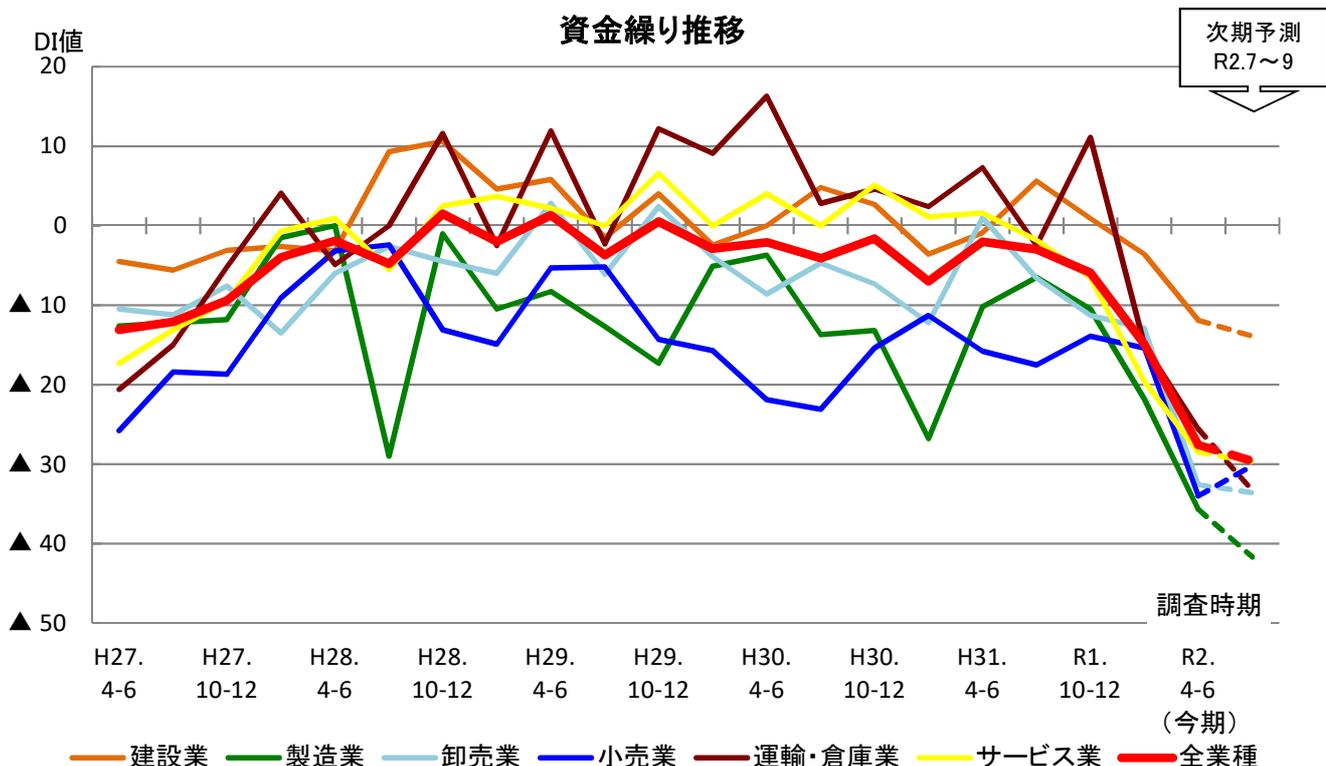
規模別にみると、中小企業（前期▲15.8→今期▲27.7）は前期比▲11.9ポイント、大企業（+3.7→▲24.0）では前期比▲27.7ポイントとともに悪化した。

次四半期（令和2年7月～9月）予測については、▲29.6となっており、今期比で▲2.0ポイントとさらに悪化の見通し。

《 資金繰り(前年同期と比較して) 》

(単位 %)

	今四半期(R2年4～6月期)実績					次四半期(R2年7～9月期)予測				
	楽である	不変	苦しい	未記入	DI値	楽になる	不変	苦しくなる	未記入	DI値
全業種	4.8	60.0	32.4	2.8	▲27.6	4.1	52.3	33.7	9.9	▲29.6
建設業	7.9	70.3	19.8	2.0	▲11.9	6.9	65.3	20.8	6.9	▲13.9
製造業	1.2	60.7	36.9	1.2	▲35.7	0.0	47.6	41.7	10.7	▲41.7
卸売業	4.2	56.8	36.8	2.1	▲32.6	3.2	47.4	36.8	12.6	▲33.6
小売業	9.4	45.3	43.4	1.9	▲34.0	11.3	37.7	41.5	9.4	▲30.2
運輸・倉庫業	7.7	51.3	33.3	7.7	▲25.6	7.7	41.0	41.0	10.3	▲33.3
サービス業	3.0	61.8	31.5	3.6	▲28.5	1.8	57.0	31.5	9.7	▲29.7
中小企業	5.1	59.2	32.8	2.9	▲27.7	4.3	51.4	34.0	10.4	▲29.7
大企業	0.0	76.0	24.0	0.0	▲24.0	0.0	72.0	28.0	0.0	▲28.0



## 8. 当面の経営上の問題点

当面の経営上の問題点として最も多かったのは、「受注、需要の増加又は減少」52.7%（前期比+12.8%）であり、次いで、「営業利益の低下」43.8%（前期比+13.9%）、「人材難、求人難、定着化の悪化」27.9%（前期比▲13.4%）、「天候などの自然条件」18.2%（前期比▲4.8%）、「経費の増加」17.9%（前期比▲5.8%）となった。平成27年7～9月期調査より19期連続（約4年半）で1位だった「人材難、求人難、定着化の悪化」の割合は減少し、3位となった。

業種別でみると、製造業、卸売業、建設業、サービス業では「受注、需要の増加又は減少」が多く、運輸・倉庫業、小売業では「営業利益の低下」が多かった。

規模別でみると、中小企業は「受注、需要の増加又は減少」が53.3%と多く、大企業は「営業利益の低下」が48.0%と多かった。

《 当面の経営上の問題点（複数回答可） 》

（単位 %）

問題点	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	天候などの自然	受注、需要の増加又は減少	出店、業者、大型店の進	官公需要の停滞	輸出の不振	少元（直）請の減	低下業率、稼働率	難原材料高、入手	の出荷下、納品価格	過剰在庫	嫁販、売価格への転	増難販、代金の回収	化売、掛手形間の長期
全業種	18.2	52.7	6.5	10.4	4.3	7.3	15.5	7.4	4.5	6.0	10.6	2.6	3.0
建設業	15.8	54.5	5.0	19.8	0.0	15.8	7.9	6.9	3.0	0.0	4.0	0.0	2.0
製造業	19.0	65.5	3.6	6.0	3.6	2.4	26.2	10.7	6.0	9.5	11.9	2.4	0.0
卸売業	25.3	58.9	7.4	8.4	6.3	6.3	14.7	10.5	7.4	14.7	14.7	6.3	7.4
小売業	26.4	39.6	9.4	7.5	5.7	3.8	9.4	11.3	5.7	5.7	17.0	1.9	1.9
運輸・倉庫業	23.1	35.9	0.0	2.6	23.1	5.1	25.6	2.6	2.6	2.6	10.3	2.6	2.6
サービス業	11.5	49.7	9.1	10.9	1.2	6.7	14.5	4.2	3.0	3.6	9.7	2.4	3.0
中小企業	18.0	53.3	6.3	10.9	4.5	7.6	15.2	7.6	4.5	5.7	10.5	2.7	3.1
大企業	24.0	40.0	12.0	0.0	0.0	0.0	20.0	4.0	4.0	12.0	12.0	0.0	0.0

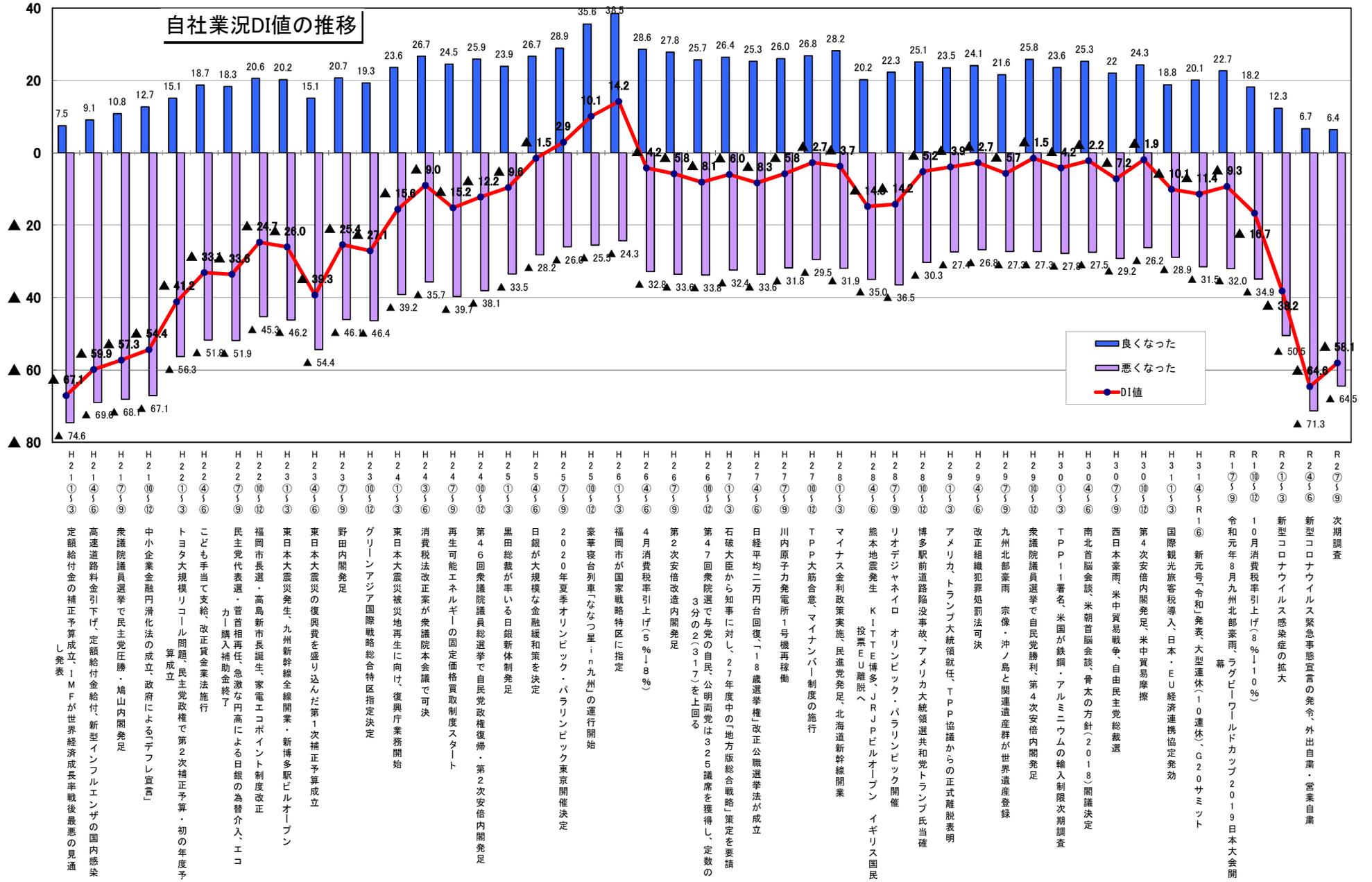
4位 1位

問題点	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
	経費の増加	営業利益の低下	不隘、店駐、車場の狭	店舖の老朽化、近	代剩、舖設、過	上家が賃り、地代の値	化難、材定着、化求の悪	費人増手過剩、人件	対労務管理、組合	資金借入難	金利負担の増加	難情報不足、入手	その他
全業種	17.9	43.8	2.0	4.7	1.7	27.9	8.8	6.0	3.5	5.2	3.9	11.2	5.0
建設業	20.8	35.6	1.0	2.0	0.0	48.5	8.9	4.0	2.0	4.0	3.0	11.9	5.0
製造業	13.1	46.4	2.4	9.5	0.0	14.3	6.0	1.2	2.4	2.4	3.6	9.5	4.8
卸売業	16.8	49.5	4.2	4.2	2.1	11.6	7.4	8.4	3.2	8.4	5.3	14.7	3.2
小売業	13.2	43.4	1.9	5.7	5.7	17.0	5.7	3.8	1.9	3.8	0.0	13.2	7.5
運輸・倉庫業	20.5	43.6	2.6	5.1	2.6	33.3	12.8	12.8	2.6	7.7	5.1	10.3	0.0
サービス業	20.0	44.2	1.2	3.6	1.8	33.9	10.9	7.3	6.1	5.5	4.8	9.1	6.7
中小企業	17.6	43.6	2.1	4.7	1.6	27.9	8.6	5.9	3.5	5.3	3.9	10.7	5.3
大企業	24.0	48.0	0.0	4.0	4.0	28.0	12.0	8.0	4.0	4.0	4.0	20.0	0.0

5位 2位

3位

自社業況の景況判断推移(「良くなった」「悪くなった」別、時代背景参考)



■ 良くなった  
■ 悪くなった  
● DI値